

第1期 出題趣旨

小論文1

現代は人類と AI の共存を真剣に検討しなければならない時代である。囲碁は AI 開発の舞台を提供したが、この分野では棋士の創造性が重視されるだけに共存のあり方が難しい。本題は、そのことについての考察を求める問題である。問題文中の真吾の発言に登場する「新聞記事」は日本経済新聞 2023 年 2 月 22 日記事「囲碁 AI、アマに完敗」であるが、日本経済新聞 2023 年 5 月 23 日夕刊記事「囲碁 AI に思わぬ盲点、人間に敗れる 深層学習では見えぬ論理」をも参考にしている。

問1は、AI の弱点を問うている。AI は膨大な学習経験を通して勝率の高い手を選択しているので、学習経験に含まれていない未知の状況には対応できないことがある。そこが弱点となる。したがって、そのような未知の状況を意図的に作出してやれば人間が勝利する確率が高まるが、プロ棋士にとって、囲碁対局として臨む以上、そのような着手の選択は矜持が許さぬところであろう。

問2は、まさに AI を用いた研究と自分の思想にどう折り合いをつけるかという問題についての考察を求めている。小竹九段は、棋士たる者は一手一手に自分の思想を吹き込み、全体として自分の碁と言えるような流れをもたせることの重要性を説いている。そのような理解を想定しているが、他の捉え方があってもよい。

小論文2

人工知能 (AI) を使って画像や文章、音声などを生成する生成 AI の技術が急速に進化したことにより、現在どのような問題が生じているのかを紹介し、その問題の解決策についての見解を記載する課題文を素材に、文化芸術の分野での生成 AI の活用にはどのような問題があるのか、また、その問題はどのように解決されるべきなのかについての課題文の見解とそれに対する解答者の考えを記述してもらおう問題である。

課題文の内容とその見解についての読解力、読み取った内容の表現力、課題文の見解に対する解答者の考えの内容やその表現力を評価の対象とする出題である。

第2期 出題趣旨

小論文1

この問題では、人類がほぼ絶滅した後に異星人 (HU 星人) が移住先を求めて調査にやってきたという場面が想定されている。突飛な空想物語のように見えるが、現在の地球は滅亡

一步手前にあるのかもしれない。

第1問では、まず、HU 星人が極北に生存するヒトと折り合いをつけるために、場合によっては彼らを駆逐するために、その能力を知っておかなければならないという解答が出てくるものと予想される。しかし、HU 星人が今後の生活の場を求めて地球にやってくることを思えば、隊長はヒトが極北で生き残ることができた要因に関心を寄せているのだという指摘があってもよい。むしろ、その方向での柔軟な思考が期待される。

第2問については、やはり HU 星人が移住先を求めて地球にやってくることを踏まえれば、彼らも自分の星での制御（環境容量と個体数との調整、資源の合理的利用など）に失敗したのではないかといった推測が生まれるであろう。

小論文2

海外の映画を日本で公開する際に、いかなる邦題を付けるかという話題に関する課題文を題材とした問題である。

まず、課題文の筆者が考える要素を適切に理解することが求められる。それに加えて、筆者の見解に従うにせよ、そうでないにせよ、自分ならどのような邦題を付けるか、その発想力や、それがいかに適切かを説明する文章力も重要である。

第3期 出題趣旨

小論文1

本問では、強力な武器の登場により武人の旧来の行動様式が通用しなくなる瞬間を描き、出題の素材としている。素材は特異であるが、思考の成果の応用範囲は広いと思われる。

三ツ矢弦之丞は、使者が持ち来たった鉄兜を被って闘えば、あるいは戦死を免れることができたかもしれないが、それでは三ツ矢家の名誉を汚し、また三ツ矢組の士気を落とすことになる。まずは、この状況を認識する必要がある。

問1では、弦之丞の激しい気性を知る国主が、「勸奨」と読める文書を使者に持たせて、「国主の命令に背いた」と評価され得る事実を残さぬよう配慮したことに気づいてもらいたい。

問2では、強力な武器が開発されれば、それに見合った戦法を練る必要が出てくるが、当面の対応策を講じてみても、その度に費用が嵩み、投入すべき人員も増大することが予想されるので、民は疲弊する。そもそも戦争をせずに済むように工夫することこそが肝要であることを指摘してほしい。

小論文2

警察庁は、自転車にも、自動車やバイクと同様に、交通反則通告制度を適用する検討を始めたが、その背景と、自転車にも交通反則通告制度を適用することとなった場合の課題を紹介する課題文を素材に、なぜ、自転車にも交通反則通告制度を適用する検討が始められたのか、自転車にも交通反則通告制度を適用することとなった場合にはどのような課題があるのかについての課題文の内容と、それに対する解答者の見解を記述してもらおう問題である。

課題文の内容の読解力と読み取った内容の表現力、課題文に対する解答者の見解の内容や表現力を評価の対象とする出題である。

第4期 出題趣旨

小論文1

現在の資本主義社会において、会社、特に株式会社はその中心に存在している。会社は、様々な方法で利益を得ているが、会社も社会の一員であり、違法・不当な行為によって利益を得ることは許されない。では、取締役が、会社の利益を求め、会社をして宝くじを購入させることはどうであろうか。

受験生には、社会における会社の役割、取締役や株主の立場、正義・倫理等を考慮しつつ、利益追求の行き着く先に存在する世界を想像し、自らの見解を記してもらいたい。伸びやかな思索を期待する。

小論文2

感染症に対する対策に関する課題文を題材とした問題である。

課題文では、コロナ禍が始まる前に、そのワクチン開発を進行させることができた可能性が論じられ、その論理を適切に理解し、説明することが必要である。さらに、それを踏まえて、自己又は政府による感染症への対処方法につき論述することを求めており、過去数年の経過を踏まえた洞察の広さ深さが問われる。

第5期 出題趣旨

小論文1

パソコンの性能が飛躍的に向上し、高速インターネットが普及することで、近年、新たな

社会問題が生じている。その1つが、本問にあるような SNS 等インターネット上における特定個人への攻撃である。インターネット特有の匿名性と集団心理が、特定個人への攻撃をエスカレートさせる。インターネット上にアップされた情報は、一瞬で世界中に広まり、誰かが保存する。保存された情報は劣化することなく、何度でも拡散しうる。

一般の人々によるインターネット上での特定個人への攻撃は、法的手続きに基づかない私的な制裁となりうる。しかしながら、これに対する規制は、人々の発言の自由等を制限することにつながるおそれがある。

受験生には、これらの点に留意しつつ、自らの見解を自由に記してもらいたい。実践的な解決策が提示されることを期待する。

小論文2

大都市圏などに住む人が、愛着を持つ自治体に継続的に関わり続ける「関係人口」を広げる取り組みが活発化しているが、その背景と、その取り組みを今後も活発化させていくにあたっての課題を紹介する課題文を素材に、関係人口とはどのような人口なのかを具体例を挙げて説明してもらうとともに、関係人口を広げる取り組みが活発化している理由と、地域の活性化に関しての解答者の見解を記述してもらう問題である。

課題文の内容の読解力と読み取った内容の表現力、課題文に対する解答者の見解の内容やその表現力を評価の対象とする出題である。